

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	理工学部	身分	教授
氏名	金澤 忠信		
NAME	KANAZAWA, Tadanobu		

中央大学特定課題研究費による研究期間終了に伴い、中央大学学内研究費助成規程第15条に基づき、下記の通りご報告致します。

1. 研究課題

(和文) セネステジーの概念および実践的適用についての研究

(英文) Research of the concept of coenesthesia and its practical application

2. 研究期間

2023年度 ~ 2024年度

3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度)

(和文)

ジャン・スタロバンスキーが2000年にジュネーブ大学で行ったセネステジーに関する連続講義を再構成し、注釈・批判を試みた。

スタロバンスキーは魂に関するアリストテレス以来の系譜にデカルトを組み入れるが、セネステジーの概念を思想史において正確に位置づけるには、アリストテレス的な外的感覚を批判し、感覚を身体の内部でとらえるデカルトの視点が決定的に重要である。スタロバンスキーは、コンディヤック『感覚論』とビュフオン『人間の自然史』を引用しながら、内部からの身体意識と他者認識の議論を深めていくのだが、テュルゴアの「私たちの身体の共存の感覚」すなわち「第六感」が、セネステジーを定義するうえでの出発点でありかつ暫定的な結論でもある。今後はこのセネステジーの概念を援用するかたちで、瀬戸内国際芸術祭や大地の芸術祭の作品を解釈するための方法論を確立する。また引き続きスタロバンスキーのセネステジーと中村雄二郎の「共通感覚」の比較を試みる。

これまでの研究成果としては、「スタロバンスキーのセネステジー (2)」が中央大学『人文研紀要』第107号 (2024年9月) に掲載された。「スタロバンスキーのセネステジー (3)」が同誌に掲載予定 (2025年9月)。研究期間は終了したが、残りの講義についても研究を継続し、成果を論文のかたちで発表していく。

(英文)

The main aim of this research is to reconstruct and criticize Starobinski's course of lectures on coenesthesia held in University of Geneva in 2000. At the beginning of the lectures, his concept of coenesthesia is thematically brought out by reading some thinkers like Aristote, Descartes, Condillac, Buffon and Turgot and is defined as "sense of coexistence of our body" or "sixth sense". We compare it also with "common sense" in the etymological meaning of this term ("sensus communis"), proposed by Yujiro Nakamura.